13









Sheet Metal Work
曲げ板金

緻密な作業で金属の板を製品へと進化させていく

折り紙で鶴を作るように金属の板を立体的に加工していく作業のことを「板金」と呼び、航空機、自動車、鉄道車両、家電製品、装飾品などに使われ、私たちの生活に無くてはならない技術となっています。金属の板を使った製品づくりは折り紙の鶴のように、折るだけでは完成させることが難しく、板に線を引く、切る、叩いて延ばす・縮める、つなげるといった多くの技術が使われます。8時間の競技時間内に、美しく高精度に課題を成形するために、繊細な手加工とあわせて高い集中力も求められます。



＜2025年大会 金賞作品＞

競技職種と生活との関わり

日頃私たちが生活の中で見たり触れたりする金属製品の多くは、工場内でロボットや最新の機械を使用し可能な限り自動化されることで、いち早くお客様の元に製品が届くように生産されています。しかし、量産される前の試作品や特注品のように前例がなく、難易度が高い製品を作り上げるためには、作業者の創意工夫と蓄積された技術、経験、感性をもとに様々な板金加工法を使い分け複雑な形状でも製品にしていきます。

前回大会金メダリストからメッセージ！

［所属：三菱自動車工業株式会社　水島製作所］

三澤 愛輝 さん

若い世代の
技能者のレベルが
上がってきている中で、
これからの日本を支えていく、
そういう技術力が必要になる
と思うので、頑張って
ほしいです！



前回大会
金メダリスト
インタビュー！

一つひとつの作業に繊細な技術が求められます！

競技課題は、ほぼ全ての工程を選手が自らの“手”を使った加工で製作していきます。金メダルを手にするためには、板金と溶接の二つの技術を駆使し、高い精度で美しい外観に仕上げていく事がポイント。板金展開図を正確に描く、複雑な形状をハサミで切断する、板を立体に変えていく繊細な曲げやハンマー作業、材料の特性に合わせた緻密な溶接条件の選定と作業、各部品の組立・調整作業など、ものづくりの総合力が問われる競技性が魅力です。

古川 健司 主査　神奈川県立西部総合職業技術校

